

# 八千代オイコス かわら版

第35号



平成 29 年 11 月 15 日 発行  
NPO 法人八千代オイコス  
<http://www.yachiyo-oikos.jp/>



## 第11回 川の学校 in 花輪川開校



### 第 11 回 川の学校を終えて

八千代オイコス代表 川瀬純一

今年 11 回目数える川の学校が 7 月 29 日（土）・30 日（日）の二日間開校されました。第 1 回に参加した当時小学 3 年生はもう 20 歳を迎えた成人になっている年齢です。

年々発展を遂げてきた八千代市内も、いまだ日本の原風景を残す谷津の間に、都市型小河川として流れる「花輪川」でスタートした川の学校は＜川で遊び、川に学ぶ＞体験を通して、水や生き物等の自然を学んでもらう活動としてスタートしたものです。

20 歳の大人になったこの学校の卒業生は、環境保護の精神と自然の大切さを大事にする心をいつまでも持ち続けてくれている事と思います。又僅かな生息地に減ったとは言え、ロマンの光を照らしながら飛び交うホタルを觀賞したり川の学校で体験した夢中で生き物探しをした記憶は、懐かしい子ども時代の思い出としていつまでも残ることでしょう。

当初は心配した雨にも会わず、二日間賑やかに楽しくスケジュールを消化出来ました。昨年初めて導入し NPO 法人水循環研究所とのコラボによる「水の循環」の説明も、2 年目の今年は内容も工夫され子ども達に分かりやすい自然の勉強となったことでしょう。

ただ例年悩ましい問題として、花輪川の成り立ちから生き物の種類の少なさはもとより、自然の繁殖増が望めず年々減少傾向にある状況が、期待して生き物探しをする子ども達の満足度に応じてあげられない事です。生き物が沢山棲める「花輪川大作戦会議」に熱心な討議と対策を考えてくれる子ども達の願いを、なんとか我々としても実現化したい気持ちでいっぱいです。

最後に市・教育委員会、学校教員関係者、ご家族の皆様の多大なご協力とご支援を頂きました事に厚くお礼申し上げます。



# 1日目 水の旅と川調べ

## 7月29日(土)



緑が丘駅集合



花輪川を歩いてみよう!



水の旅(水循環) 降った雨はどこへ



岩井先生(NPO 法人水循環研究所) 水循環のお話



昼食



グループづくり



水質調査



しかけをしてみよう!



しかけの場所さがし





# 2日目 生き物調べ

7月30日(日)



生き物を探そう！



草が生えているところを、網に向かって足でガサガサと追い込む使い方もあります。

福士先生から網の使い方を説明



しかけに何か入ってる？



生き物をさがそう！



つかまえた生き物をよく見てみよう！

ミルソーに入っているのは、ドジョウとヨシノボリ





みんなで考えよう!

# 生き物がたくさんすめる花輪川大作戦会議

グループ発表

7月30日(日)  
やちよ農業交流センター

## 1班 フィッシュ7

- 川の中のごみを拾う
- 農薬などが流れてこないよう「さく」を立てる
- ポスターを作る
- 生き物がすめるよう、気を付けていきたい



## 4班 チームにしきごい

- 川のそうじをする
- 水をふやす
- よんでいるところの流れをよくする
- 草刈りをする



## 2班 白メダカ

- かっている生き物をにがさない
- 水をむだ使いしないようにする
- 川にごみを捨てない
- 魚のかくれがを作る



## 5班 チームメダカ

- 茂みがあって、岩のすきまがある
- ごみをひろう看板を立てる
- 茂みをもっと作る
- エサをふやす



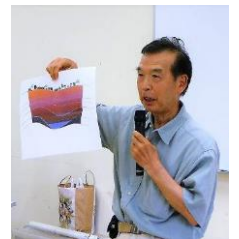
## 3班 メダカ

- 外来種など川に放さない
- 水草を植える
- 生き物を大切にす
- 生活排水、工場排水を流さない



## 大人班 チームイトウ

- 人工的に流れを作る
- 掃除をする
- 水草をふやす
- 排水を分離する



## 今年の川の学校で伝えたかったこと、実施して気になったこと

スタッフチーフ 桑波田和子

今年の夏も酷暑！・・・と川の学校を準備する側では大変気になるところでしたが、7月29日（土）30日（日）は、気にしていた熱中症の心配より、曇りや雨も気になる日となりました。

今年は市内の全小学校（3年生以上）に川の学校のチラシを配布し、33人の申込みがありました。2日間それぞれの参加者は、こども＋保護者＋講師＋オイコススタッフと全員で76人となりました。スタッフには、大学生も加わり、子どもたちにも「お兄さん」「お姉さん」とモテモテぶりでした。

今年は、水循環についても実験を通して体感していただけるように、水研究所の瀧さん、岩井さんとも事前の打ち合わせを丁寧に行い当日臨みました。4年生以上は、水について学習しているので理解しやすいと思います。一方保護者の方が興味をもたれたようです。

今年は、①水があることで多くの生き物が生息できていること。②水が集まり流れる花輪川にすむ生き物を探すこと。③川・水を大切に作る気持ちを育むこと。を軸として企画し実施しました。

子どもたちや保護者の方の「ふりかえり」からも解るように、川での体験は重要と再確認しました。

一方、花輪川でザリガニが多く死んでいる場面に直面し、大変ショック！でした。これまで、川の白濁や、ヒルの大発生などありましたが、今年はザリガニの多くが死に、しかも階段ごとに死骸をまとめてあったのです。人為的と疑わざるを得ない状況で、気になることです。

川は上から見るより、川の中から見ると、いろいろな状況に気づきます。

オイコスの川の学校を通して、気づいた人が川をキレイに行動する人へと期待しています。

## 川の学校に参加して

スタッフ 中町康人

今回初めて川の学校に参加致しました。私は4月に八千代オイコスの会員となってスタッフとしての参加でした。私自身は子どもの頃にザリガニやカエル、サンショウウオ等を採用した経験がありますが、八千代オイコスの活動拠点である花輪川でどんな生き物が生息しているのかは非常に興味がありました。

当日は天候が不順であったり、数日前に農薬が散布された影響等、あまり良い条件とは云えなかったかもしれませんが、各班がそれぞれ仕掛ける場所を工夫してたくさんの生き物を採用していました。ゲンゴロウやマツモムシ等最近では見かけることが少なくなった生き物を採用できたのはとても良かったと思います。子どもたちはそれぞれいろいろ思うところはあったと思いますが、今回の体験を基に自然や環境の保護について興味を深めていってくれればと思います。

## 夏休みの楽しい思い出

1班フィッシュ 6年 矢内翔吾

僕は今回初めて川の学校に参加しました。僕は去年まで東京に住んでいたのが水生昆虫や自然に触れ合うことがなく参加できることを楽しみにしていました。

1日目は花輪川の歴史や水質調査や川の生物について学び、班で自己紹介やチーム名を決めたりしました。その後、みんなで川に入り手作りの仕掛け作業を班ごとに行いました。仕掛けの中身はサラミやイカなどにおいがするもので仕掛けをしました。

2日目は仕掛けを上げる作業でした。何が入ってるかわくわくしました。一つ目の仕掛けには残念ながら何も入っていませんでした。でも、二つ目の仕掛けにはドジョウ2匹、ヨシノボリ2匹がつかまっていました。そして、班の7人で網を使って川の中の生き物を捕まえました。班の7人で捕まえた生き物はエビ12匹、ドジョウ5匹、ヨシノボリ67匹で合計84匹も捕まえる事が出来ました。みんな大満足していました。他のチームでは、100匹以上捕まえた班がいたので悔しかったです。

その後、交流センターに移動して最後に自分達が捕まえた生き物を発表したり、生き物が沢山する大作戦の表を作ったりしました。最後には1人1人川の学校の修了証をいただきました。

川の学校で体験したことは夏休みの楽しい思い出になりました。皆さんありがとうございました。

## 川の学校に参加して

3班 メダカチーム 3年 渥美京介

川の学校に参加して、ぼくがおどろいた事やうれしかったことは3つあります。

1つ目は、水のろか実験で細かいすなとあらいすなは雨がふった時に水がすいこまれる速さが違うことにおどろきました。

2つ目は、1日目2か所にしかけをして2日目に見たら、巨大なダルマガエルの死がいが入っていた事です。ぼくはカエルが好きなので、カエルを見ることができてとてもうれしかったです。

3つ目は、班のみんなと協力して、ヨシノボリ9匹、エビ4匹、ドジョウ3匹、金魚1匹、全部で105匹あみで捕まえられてとてもうれしかったです。

でも、川が汚れているので、ぼくはごみを拾ったり、水草をうえて生き物がたくさんすめるきれいな川にしたいと思いました。

オイコスの皆さん、大学生の皆さん2日間本当にありがとうございました。

## 川の学校感想文

4班 チームにしきごい 4年 中町伊吹

土日に参加した川の学校はとても楽しかったです。なぜかという、川の学校はしかけをしかけて魚を取ったり、あみでも取るのが面白かったからです。

私が、川の学校の2日間で心に残ったことは2つあります。1つ目はしかけをしかけたことです。理由は1日目にしかけて、その後、どんな魚が入っているか想像すると、ワクワクして2日目とても楽しみに思えたから、しかけのことを書きました。

2つ目は友達とあみで魚を取ることです。なぜかは、友達と一緒にあみでヨシノボリやザリガニを取るのが楽しかったからです。「何か取れた?」、「ヨシノボリだ。」、「いいなあ。」等の会話をしながら魚取りをしました。

川の学校は11年(11回)も続いています。きっと、こんなに楽しいから、そんなに続いていると思います。とっても楽しかったので来年も行きたくなりました。

## みんなで力を合わせた川の学校

5班 チームメダカ 4年 川瀬哲平

ぼくは2度目の川の学校の参加でした。

花輪川のことは知っているつもりでしたが、実際に川に入ること、水の冷たさ、水の量、水のおいしさ、流れの速さなど、見ただけではわからない発見がたくさんあります。だから、川の学校で川に入る時が1番わくわくします。

去年と違ったことは、たまたまなのか、ぼくの班が担当した場所での魚の数、魚の種類が少なく残念に思いました。

「生き物がたくさんすめる川」について班で考えを出し合ったら、去年とはまた違った案も出て、まだまだやれることがあるなど思いました。ぼくがやれる事を探してやっと思いいます。

チームメダカのみんなとは学校が違うけれど、2日間一緒に川にいたことで、仲間になれたことも楽しかったです。来年は魚が増えているか楽しみです。

## 川の学校に参加して

親チーム イトウ 伊東佳演

自分が子どものころは、花輪川よりもごみの多い川でシラハヤ、ウグイ、オイカワなどを採ってよく遊んでいました。そういった子ども時代を過ごしたため、子どもが参加したいといったときに私も参加しようと自然学習に参加させていただきました。

1日目はいろんな先生方が川の出来るまでをいろんな実験を通して子どもたちにも分かりやすく解説し、面白い実験など子どもたちにとっては良い内容だったと思います。

2日目に川に入ると見ただけでは分からない川の状況が分かってきました。この川は水草が全く生えていない川だったのです。よどみにはヘドロがたまり、水面には有機物の膜が張っているなどなど。また、魚の数が多いことは良いのですが、魚種が少なすぎるのが気になりました。まだまだ花輪川は改善の余地があるな一と思いました。

午後からは研修室でチーム毎に『川をきれいにするには』と題してディスカッションが行われ子どもたちも活発に意見交換しており驚かされました。小さい時に環境について学ぶことはすごく大切なことですので、もっとこの活動が広まってくれればと思います。

最後に会長さんが『ゆくゆくは蛍が飛び交う川にしたい』とおっしゃっていたので、ぜひともそうなってほしいと思います。





## 今年もホタルが沢山飛んだよ！

8月6日（日）の暑い夕方、ホタル観賞会に参加のご家族約30名とオイコス・メンバー10人程が、西空にまだ夕日が残る7時過ぎ貞福寺駐車場を出発。ホタルを八千代市内で唯一観賞出来る石神谷津へ向かう。

今年は何の位の数が見つけられるか、参加の皆さんそれぞれが期待して現地に到着。夜の暗さが増すころ子どもの声「光ったよ！」。

その声をきっかけに、光の数はどんどん増えて、足元に舞い降りるホタルを手にして、大喜びでした。

今年は何年以上のホタルの群れを目にし、参加者一同大喜びで観賞会に満足して帰りました。

（オイコス 川瀬）

ホタルは図鑑でしか見たことがありませんでした。ほんとうに八千代でホタルが見られるのかなと思って家族と一緒に来ました。

田んぼの中は暗くて見られないのかもと思っていたら1匹見られました。しばらくすると沢山のホタルがいて綺麗でした。

ズボンに止まったり、手の上に乗せたりできて、ホタルが見られてよかったです。

（4年 影山智昭）



### 八千代オイコスへのご支援 ありがとうございました！

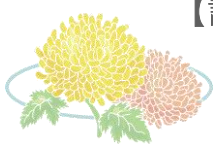
市民活動団体支援金交付制度の交付額が決定しました。

「豊かな自然を感じられる花輪川」事業へ97,911円が交付されることになりました。

National Institution For Youth Education  
独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
「子どもゆめ基金助成活動」



「川の学校in花輪川」の活動は、平成29年度子どもゆめ基金助成活動の交付により実施しました。



【訃報】 事務局長 小原 翔さん 7月14日逝去  
監事 田邊英明さん 10月8日逝去  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 編集後記

八千代オイコスの中心メンバーである小原さん、田邊さんを相次いで見送ることになり、お二人の存在が今更ながら大きく残念でなりません。

田邊さんとは、TANA-HとTANA-Jコンビでかわら版11号（平成21年5月1日発行）から編集に携わってきました。田邊編集長がすべて準備をして、それを最後に形にするといった凸凹コンビでしたが、一緒に作り上げる喜びをいただきました。絵心のある田邊さんが毎号、挿絵を描いて特に巻頭を飾った数々の風景画に「楽しみにしています」と読者の声をもらっていました。残していただいた挿絵の中からほんの一部ですが、今号にもちりばめています。

一緒に活動できた感謝の気持ちでいっぱいですが、田邊さんの思いを引き継いでいけたらと思っています。（棚田 TANA-J）